

**2023年度
openam-dev
活動報告**

アジェンダ

- コンソーシアム版 OpenAM 開発状況
 - OpenAM 開発
 - Web Agent 開発
 - コミュニティサイト
- CNA の認定について

OpenAM 15 開発

状況	バージョン情報を15.0.0-SNAPSHOTとして次バージョンの開発中。
実施内容	<ul style="list-style-type: none">□ セキュリティ FIX(1件)□ CNA 認定に関する作業<ul style="list-style-type: none">➢ セキュリティリリース (14.0.1)➢ GitHub の Security ページの準備➢ GitHub Actions ワークフローの調整
今後の予定	<ul style="list-style-type: none">□ 3~4 年のスパンで開発を想定□ 新規機能の検討・開発<ul style="list-style-type: none">➢ DevOps 推進➢ プロトコルの更新への追随 (OAuth/OIDC/WebAuthn)➢ REST API の拡充と XUI 化➢ ライブラリのアップデート・排除➢ OpenJDK 21 対応➢ Jakarta EE 対応➢ OGIS・OSSTech の独自機能の移行

今年度はテンプレートインジェクションの脆弱性 1 件のみ

◆ OpenAM 開発 – CNA 認定に関する作業

CNAの認定を取得するにあたって必要な作業を実施

- セキュリティリリース (14.0.1)
 - 脆弱性が修正されたバイナリーを提供できるようにする
- GitHub の Security ページの準備
 - 脆弱性開示ポリシーや過去の脆弱性の一覧を公開する必要がある
- GitHub Actions ワークフローの調整
 - 今後のセキュリティリリース向けに調整

◆ OpenAM 開発 – 開発中の機能 (1)

- OpenJDK 21対応
 - OpenJDK 21でビルド・動作するようにコードの修正を実施
 - OpenJDK 11以前と互換性が無いAPIについてはリフレクションを用いて対応しているが、別途サードパーティのライブラリで置き換えることを検討している
 - 既存のライブラリではSNMP監視が動作しない問題もある

◆ OpenAM 開発 – 開発中の機能 (2)

- TLS 1.3 対応
 - TLS 1.2 までの指定しかできない機能がある
 - 認証モジュール (LDAP、AD)
 - ユーザーデータストア
 - WebAuthn Authenticator サービス
 - TLS プロトコルバージョンの設定を廃止し、OS や Java の制御に任せる方向で修正

◆ OpenAM 開発 – 開発中の機能 (3)

- 管理コンソールのリライト (引き続き)
 - SvelteKitというWeb開発フレームワークを利用してリライト中
 - 画像は開発中の管理コンソール (デザインは既存と変わらない)



OpenAM 開発 – 開発中の機能 (3)

- 新たにユーザー、グループ、権限、エージェントについて対応

対象 - ユーザー

ユーザー

+ ユーザーの追加 × 削除 (0)

フィルタ...

<input type="checkbox"/> ユーザー名	一般名	状態
<input type="checkbox"/> amAdmin	amAdmin	● アクティブ
<input type="checkbox"/> anonymous	anonymous	● アクティブ
<input type="checkbox"/> demo	demo	● アクティブ

« < 1 > »

アプリケーション - エージェント - Web エージェント > エージェント > webaget1

Web エージェント

webaget1

検索 × 削除

グローバル アプリケーション SSO OpenAM サービス その他 高度

グループ

パスワード

状態 ⓘ

エージェント設定リポジトリの場所 ⓘ

エージェント設定変更通知 ⓘ

通知を有効 ⓘ

エージェント通知 URL ⓘ

エージェント配備 URI プレフィックス ⓘ

Agent 4.2 開発開始

状況	これまでコンソーシアム版として OpenAM を対象としてきた。 新たに Web Agent もフォークし、開発を開始した。 https://github.com/openam-jp/web-agents
実施内容	今年度は進捗無し。
今後の予定	OGIS、OSSTech のパッチをマージして 4.2.0 としてリリース予定。

コミュニティサイトの作成

状況	<p>GitHub Pages でコミュニティサイトを作成。</p> <p>https://openam-jp.github.io/ja/</p> <p>現時点のコンテンツはOpenAM 14のリリース時に GitHub wiki で公開した内容(リリースノートや新機能の説明など)。</p>
実施内容	<p>CNAの認定のために脆弱性開示ポリシーや過去の脆弱性の一覧ページを作成。</p>
今後の予定	<p>コンテンツを拡充していく。新機能を追加した際に利用手順等を追加する。</p>

CNA の認定について

◆ OpenAM コンソーシアムが CNA の認定を取得

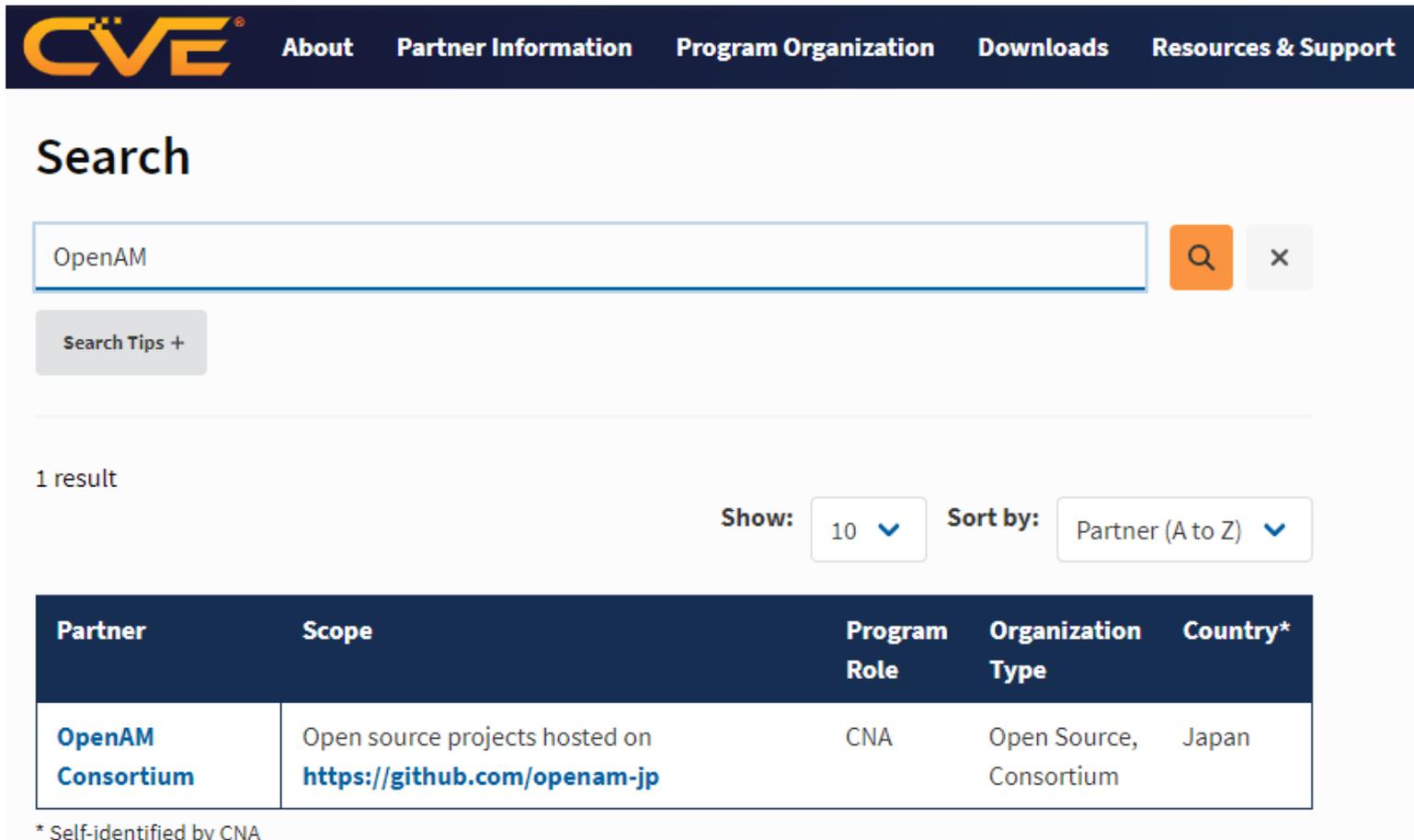
2019年にJPCERT/CCからSub CNAへの勧誘があり、打ち合わせを重ねつつ粛々と進めてきた。

2024年3月に無事に認定を取得。

- <https://www.cve.org/Media/News/item/news/2024/03/26/OpenAM-Consortium-Added-as-CNA>
- <https://www.openam.jp/category/operation/2024%E5%B9%B4>

OpenAM コンソーシアムが CNA の認定を取得

<https://www.cve.org/PartnerInformation/ListofPartners>



The screenshot shows the CVE.org website with a search bar containing "OpenAM". Below the search bar, there is a "Search Tips +" button. The search results section shows "1 result" and includes filters for "Show: 10" and "Sort by: Partner (A to Z)". A table displays the search results for the OpenAM Consortium.

Partner	Scope	Program Role	Organization Type	Country*
OpenAM Consortium	Open source projects hosted on https://github.com/openam-jp	CNA	Open Source, Consortium	Japan

* Self-identified by CNA

◆ CNAのメリット

- 脆弱性の公表を迅速に行えるようになる
 - これまでは脆弱性の届出をしてから公表まで数か月かかっていた
 - 自分たちで採番することにより、細やかな制御が可能となる
- コンソーシアムの活動をアピールできる
 - OpenAMコンソーシアムの参加により、CNAの「Organization Type」に「Consortium」が追加された
- CNAコミュニティに参加できる
 - 定期ミーティングへの参加（強制ではない）

OpenAM
コンソーシアム

<https://www.openam.jp/>